

先進的事例の報告

2022年3月23日

経済産業省 ヘルスケア産業課

(1)認知症共生社会

認知症共生社会の必要性

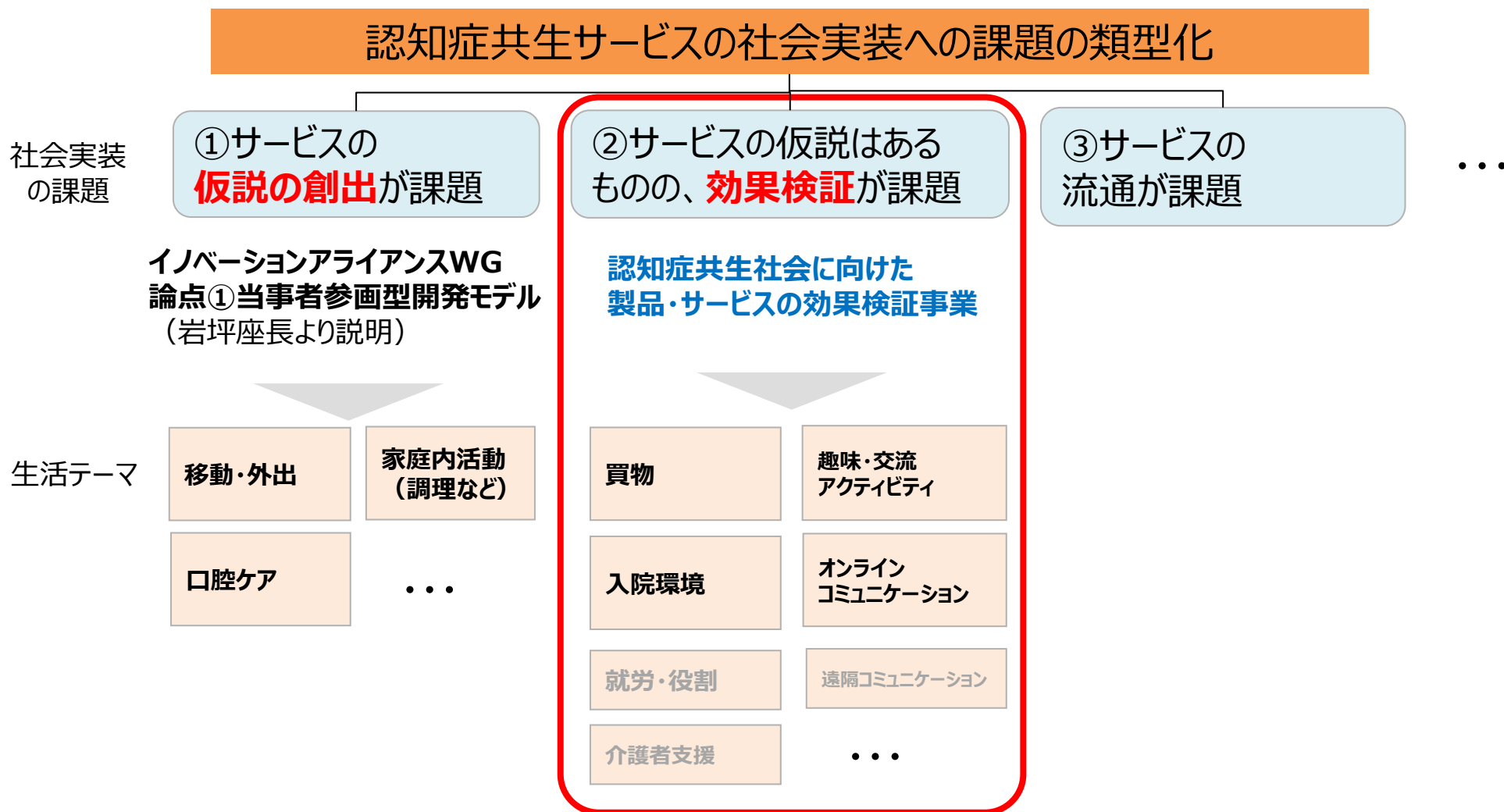
- 認知機能や社会機能の低下は、ご本人の生活様式に影響を及ぼす一方、様々な場面での生活課題が社会で十分には理解されていない。
- このため、医療や介護だけに限らず、幅広いステークホルダーと連携して理解を高める必要性がある。

本人の状態 テーマ	健常	主観的認知機能障害	軽度認知障害（MCI）	認知症（AD）
経済活動に関する課題		特殊詐欺被害の早期発見・予防・迅速な対処	金銭管理能力の低下（引き出し・通帳管理）	貯金活用が困難になる 相続（遺言者の認知能力の担保・補完・備え）
住まい関係の課題		自然と健康になる住まい 家族・地域とのコミュニケーション支援	認知機能や視力・聴力の低下が見られても暮らしやすい住まい	適切な介護・ケアサービスの利用
移動関係の課題		ラストワンマイルの移動補完 運転サポート		認知機能が低下しても活用できる移動手段の確保
本人社会参画課題への対応			地域における集いの場の整備	
周囲で支える人（家族・地域包括ケア主体）の課題		遠隔コミュニケーションツール	見守り（異常検知）	徘徊対応

※赤色は認知症特有・青色は認知症特有では無いもの

【参考】認知症共生サービスに関する各課題と位置づけ

- 認知症共生に資する質の高い製品・サービスの開発・普及を通じた認知症共生社会の実現に向けて、各サービスや生活課題の社会実装への課題はいくつかに類型化される



認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業

- 本事業では、買い物や社会参加等の生活課題をテーマに、事業者が介護施設や自治体等を実証フィールドとし、研究の分析を行う研究機関と連携し、製品サービスの利用による介入効果（①本人や家族の影響、②経済的・社会的なインパクトの両面）の検証を行う。
- 令和3年度は前年度採択事業者の11団体のうち、課題評価を経て5団体を継続支援した。

令和3年度 採択団体一覧

生活テーマ	事業者名	効果検証する製品・サービス	効果検証の主な論点
旅行・アクティビティ	NECソリューションイノベータ株式会社	オンライン旅行サービスの体験	・ 本人のQOL向上効果（+介護予防効果）の実証結果 ・ 支払い意向（本人、介護施設）の検証
趣味講座	株式会社オールアバウト	MCI・認知症対応型趣味教室への参加	・ 本人のQOL向上効果（+介護予防効果）の実証結果 ・ 支払い意向（本人、介護施設）の検証
地域共生型オンラインコミュニケーション	一般社団法人セーフティネットリンクージ	地域共生支援アプリ（みまもりあいアプリ）を通じた情報配信	・ 認知症の人向けアプリのフィージビリティ ・ オンラインピアサポートの本人・家族への効果
認知症フレンドリーなスーパー	株式会社マイヤ	認知症になってもやさしいスーパーでの買い物支援（スローショッピング）	・ 買物の本人のQOL向上効果、家族負担減 ・ 小売店の経営にプラスという実証結果
入院環境デザイン	株式会社メディヴァ	病院における認知症フレンドリーな環境デザインの導入	・ 入院環境改善による本人の周辺症状緩和 ・ 病院の経営へのプラス効果（負担軽減等）

【事例紹介】NECソリューションイノベータ株式会社

事業者が想定する製品・サービスの社会実装によって目指す社会像

- 高齢の認知症当事者の「旅行」の希望を叶える取組みを通して、豊かな生活を支援する。
 - － 介護事業者とIT技術で仲介し、新たな形の「外出」としてオンライン旅行サービスの提供

課題



高齢の認知症のご本人にとって障壁

目指す社会



新たな形の外出

あらたな生きがいのある世界

- 高齢の認知症当事者にとって、気の合う仲間や家族との外出に対する希望あるものの、認知機能や身体機能の衰えによる**活動制限**や**周りへの配慮**、仲間を集うことへのハードルから、選択肢から消えている割合は少なくない（※1）。
- 「旅行」は、**高齢者の生きがいや楽しみとしてあげられることが多く**、買い物やスポーツおよび芸術鑑賞など他の活動よりも、**旅行により楽しみを見出している結果が存在。**（※2）

※1：日本認知症官民協議会「認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ中間とりまとめ報告書」（令和2年3月27日）

※2：内閣府「平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査」、ソニー生命保険「シニアの生活意識調査2019（n=1,000）」

NECソリューションイノベータ社資料より改編

【事例紹介】NECソリューションイノベータ株式会社 想定するサービスの概要

- 介護施設を利用する高齢の認知症向けのVRオンライン旅行サービス
 - － 当事者に対して：安心・安全、オンライン旅行を通じた会話機会の増加、生活上での楽しみ等の提供
 - － 介護者に対して：介護施設としての特色づくり、コミュニケーション媒体の提供等

旅行中

本格的なVRゴーグルを採用

視野角が本当に360度に近いため、没入感、躍動感が圧倒的に高い

頭に直接装着できるため手で持つ負担がない

重さ、窮屈さを感じる方がいるのではないかと懸念されたが、楽しさが上回り、そういった感想を言う方は非常に少なかった



例：立山黒部アルペンルート のオンライン旅行



旅行前

旅のしおり



旅行後

思い出ノート

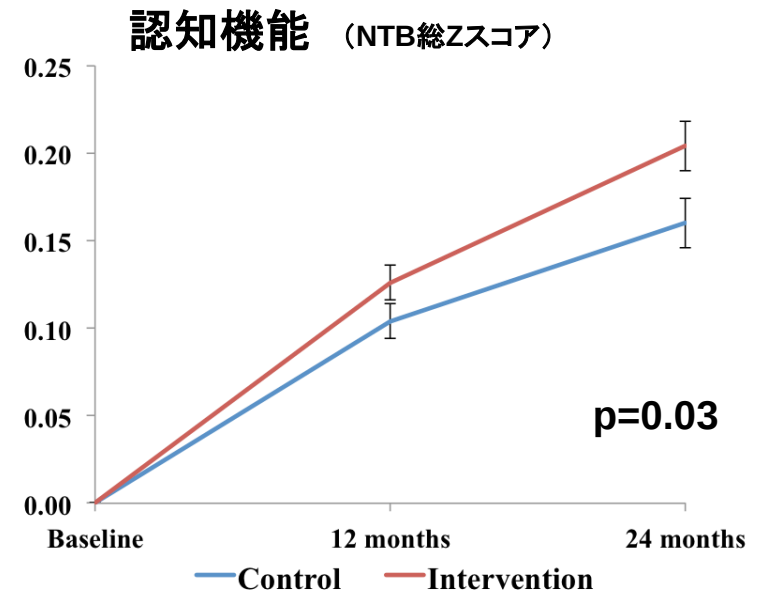
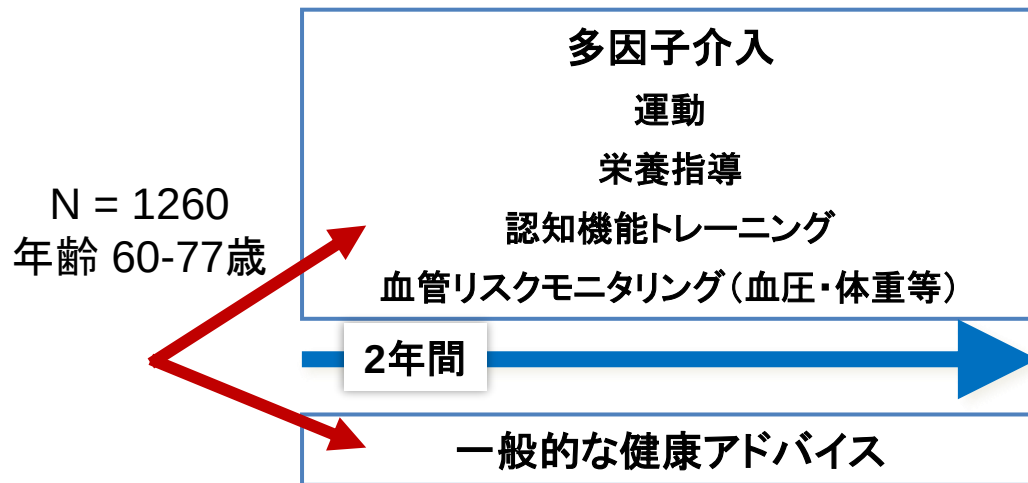


(2)認知症予防を目指した 非薬物的な多因子介入研究

先行研究

FINGER (Finnish Geriatric intervention) study

- フィンランドで実施された認知症予防に関する大規模な介入研究
 - 認知機能低下のリスクを持つ60 歳以上の1,260 名を対象とし、介入群（631 名）は食事、運動、認知トレーニング、血管リスクの管理を実施、2 年間に200 回、計300 時間の会合を行った。対照群（629 名）には一般的な健康上のアドバイスが行われた。
 - 2年間追跡した結果、介入群は**認知機能**、**実行機能**、**処理速度**で対照群と比べ有意に高い数字を示した。



認知症対策官民イノベーション実証基盤整備事業 研究機関と民間事業者が連携した多因子介入の取組事例

- 令和4年度までの4年間で、国立長寿医療研究センターを中心とした複数のフィールドで、民間企業と連携した予防介入プログラムの効果検証を目的とした大規模（約千人）実証を実施中。
- 運動指導・栄養指導・認知機能訓練等を組み合わせた介入プログラムの提供については、SOMPOホールディングス/SOMPOケアが統括。

◆ 運動指導

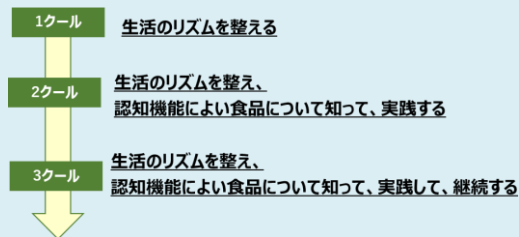
ストレッチ、バランス運動、筋トレ、有酸素運動（エアロビクスダンス）、コグニサイズの組み合わせ

例：コグニサイズ：認知課題（情報処理・注意・記憶等）と運動課題（ステップ・足踏み等）を組み合わせた運動



◆ 栄養指導

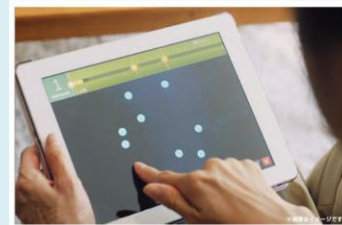
例：管理栄養士、保健師、看護師などの健康相談員による
指針に沿った指導、行動目標設定



記録簿（月）		目標	実績
体重 (kg)	65		
血圧 上 (mmHg)	137		
血圧 下 (mmHg)	83		
歩数 (歩)	4800		
毎食後に運動を行う		○	
スクワットを50回		○	
魚		○	
肉		○	
卵		×	
牛乳		○	
大豆		×	
野菜		○	
海藻		×	
いも類		×	
豆類		○	
油脂		○	

◆ 認知機能訓練

例：タブレットを用いたゲーム型の認知機能訓練
「Brain HQ®」を提供



【事例紹介】SOMPOホールディングス/SOMPOケア 実施中の実証研究からの気づき

- 介入プログラム参加者の身体状態/栄養状態/意欲の多様性

- 例1：運動能力に差があり、一人ひとりの状態に応じて指導できる専門性の高いインストラクターが必要
- 例2：一人ひとりの予防プログラム参加意欲に大きな差があり、目標を具体的に伝えることが重要



意欲が高い



意欲が低い

【事例紹介】SOMPOホールディングス/SOMPOケア 実施中の実証研究からの気づき

- 実証研究の期間中、緊急事態宣言が発出され、一時的にオンラインでの運動教室を実施
 - 高齢であってもデジタルのメリットを感じる参加者は存在し、丁寧に使用方法を説明することが重要
 - オンラインでの運動指導によって対面での運動指導と同等の運動強度が維持できれば、専門性の高いインストラクターの確保等の面で、より効率的なプログラム運営に向けた可能性

